

30年度自己評価結果公表シート

作成 大阪商業大学附属幼稚園

1. 本園の教育目標

学校法人谷岡学園の建学の理念“世に役立つ人物の養成”に向けて、“人間形成の土台づくり”を進めるため、子どもたちの遊びや生活を通じた教育活動を行います。

- ① 豊かなこころを育てる・・・品格ある立派な人間に育てるために！
- ② 小学校につながる力を育てる・・・小学校でますます学力が向上するように！
- ③ やわらか頭を育てる・・・自分の頭で考える力を育てるために！
- ④ 楽しい生き方ができる・・・自己の力を効果的に発揮できるように！

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

- ・教育内容の充実、改善に努め、指導計画の充実及び領域研究を行い、建学の理念をもとにした教育を推進するとともに教員個々の資質向上に主体的に取り組む。
 - ✓ 豊富な学びを生む実体験ができる環境を整え、考える力やコミュニケーション力を養い、仲間関係を豊かにする保育を目指す。
 - ✓ 学びや育ちに向かう心情・意欲・態度を育て、小学校につながる力を育てる。
 - ✓ 見える教育、見えない教育を明確にして教育力向上を図る。
 - ✓ 建学の理念と幼稚園教育要領のすり合わせを行い、教育課程の充実を目指す。
 - ✓ 外部研修へ積極的に参加し、併せて園内研修の強化を図り、自己啓発にも努める。
- ・幼稚園での生活や遊びの中で建学の理念や幼稚園教育要領が生きていること、小学校につながる力と人間形成の土台づくりとしての幼児教育を実践していることを発信する。
- ・保護者との連携、協力を深めることにより教育効果を高め、子どもが基本的な生活習慣（生活リズムの確立、TPOの感覚、内省する習慣、踏んばる力（我慢する気持ち））を身につけることで、子どもが育つ幼稚園を目指す。
- ・高校生や大人と子どもの交流を深めることで園児の生活の幅を広げ、一層の成長につなげるため、地域や系列校との連携について検討し、実践する。

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
幼稚園の教育課程の編成・実施に関し、教職員間の共通理解を図る。	幼稚園教育要領を建学の理念及び教育方針とすり合わせ、幼稚園教育要領の実施に関する具体的方法として「写真で見る教育課程編成」を実践した。 幼稚園教育要領と建学の理念等との接点を意識し、より良い教育課程の編成に向け、継続して取り組んでいく。
建学の理念、幼稚園教育要領、教育課程、子どもの実態等を基に指導計画を作成する。	子どもたちの実態を踏まえ、各学年の担当教員が意見交換を行いながら、建学の理念及び幼稚園教育要領を踏まえた「写真で見る教育課程編成」を通じて、学びや育ちを保証できるように指導計画の作成に努めた。 文字ではなく、視覚に訴えることは、各教員の資質向上につながるため、引き続き「写真で見る教育課程」を取り入れ、教育課程の再編成と指導計画の充実を図る。

<p>教職員間の保育に対する共通理解を強化するため、園内研修を充実させ研究会等へも積極的に参加し、教員一人一人の資質の向上に努める。</p>	<p>外部研修等へ積極的に参加し、研修で学んだ内容を園内研修で積極的に報告するなど、毎日の保育の参考となる情報共有を推進した。</p> <p>教職員間で園内研修や情報交換を積極的に実施し、特に、支援を要する子どもについての情報は全教職員間で共有し、園児に対する共通理解を深め、見通しを持った保育を実践するよう心がけた。</p>
<p>園だよりや子育てサロン、公式WEBサイト（新着情報、ブログ）などを通して幼稚園の情報を発信していく。</p>	<p>保護者との懇談、参観会及び子育てサロンなどを開催し、子どもたちの学びや育ちを定期的に保護者に伝えるとともに、保護者の思いや考えを受け止める機会としても活用した。</p> <p>保護者会広報部と連携し、子どもたちの園生活や園外保育の様子及び保護者会活動やイベントの報告など、個人情報の管理に配慮しながら、公式WEBサイトを利用して積極的に情報発信に努めた。</p> <p>保護者会広報部の協力を得て、保護者会機関紙「Smile」を年3回発行し、保護者に配付した。</p> <p>谷学ネット（携帯電話を利用したメール配信システム）を利用して行事予定や天候急変時の緊急連絡等を発信することで、保護者に情報を的確に周知した。</p>
<p>安全に配慮した環境づくり（施設・設備の改善）を進める。</p>	<p>園内、園庭の環境整備のため、定期的に遊具の点検を実施し、必要に応じて補修した。</p> <p>園舎内外の補修・改善も行った。</p>
<p>地域・系列校との連携を進める。</p>	<p>地域との連携では、幼稚園行事（夕涼み会、敬老会）などを通じて、幼稚園の取り組み内容、行事等への理解が得られるよう努めた。併せて、園児が地域の方々に対し、思いやりの気持ちを持つことができるよう意識づけた。</p> <p>また、一部の行事では予想を上回る参加者数となっているので、安全に配慮した行事運営を行うため、安全確保について継続して法人本部と協議していく。</p> <p>系列校との連携では、昨年度に引き続き、大阪商業大学の大学祭における園児の絵の展示、大阪商業大学高等学校の学生による園児の意見を取り入れた玩具（木製パズル）の制作を実施した。</p>

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

<ul style="list-style-type: none"> ・多様な子どもに対応するため、園児に対する共通理解を深め、見通しを持った保育を実践し、さらなる教職員の資質向上を目指した。 ・家庭との連携、協力を密にし、幼稚園と家庭がともに子どもの成長を促した。 ・日々の園生活や遊びを通じ、建学の理念を意識した質の高い教育を実践した。 ・教職員が、常に保護者との連携を意識することにより、子どもの育ちと保護者の思いをタイムリーに把握することができた。 ・研修会等へ積極的に参加し、内容を園内研修で報告することで、情報を共有できた。 ・学びや育ちに向かう心情・意欲・態度を育てることを目標とし、幼稚園教育要領との整合性

及び教育方針を意識した園児一人一人を見つめる教育を実践した。

- ・地域や系列校との連携を積極的に推し進め、子どもの生活の幅を広げながら、子どもの成長につなげた。
- ・保護者だけでなく、一般の方にも幼稚園の教育内容について理解を深めていただけるよう、情報発信に努めた。

5. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
保護者ニーズの把握と建設的なコミュニケーションのあり方の検討	<p>保護者が期待する幼稚園像を保護者懇談会や保育参観及び担任等を通じて把握し、求められる幼稚園の姿を確認したうえで建学の理念に基づく教育を意識した本園のビジョン策定の基礎とする。</p> <p>公式WEBサイトを用いてタイムリーに情報発信を行い、保護者との連携強化を図る。</p> <p>連絡ミスの軽減及び事務の簡素化等を図るため、付加価値を持った保護者との新たな情報交換手段の導入を検討する。</p> <p>定期的な保育参観により日常の保育の様子を保護者に公開する機会を継続して設けるとともに、父親など男性が参加できる行事の一層の定着に向けた方策を検討する。</p>
教育力向上への取り組み	<p>園内研修の強化と研修会（学会、全日幼、大私幼、近研関係、大阪府私学・大学課人権、大私幼プロジェクト、ちやいどネット他）へ積極的に参加することで、教員一人一人の教育力向上につなげていく。</p> <p>各教員が自己研鑽に取り組めるよう、在園時間の使い方等の見直しを検討していく。</p> <p>各教員の自己点検の結果を全教員にフィードバックし、個人の問題点を幼稚園としての問題点として共有し、今後の教育に活かしていく。</p>
安全管理マニュアルに基づく防災・防犯体制の確立	<p>安全管理マニュアルは、状況に即して更新する。</p> <p>震災やゲリラ豪雨等の自然災害を含む大規模災害に備え、園内の避難経路を確認するとともに、全教職員が各自の役割分担を自覚し、学期毎に実施する避難訓練に臨む。</p> <p>引き続き、布施警察署と連携した防犯訓練の実施及び防犯意識の向上を図る。</p> <p>東大阪西消防署との連携による防災・防犯体制を構築について検討する。</p> <p>法人本部危機管理担当及び大学警備員とも連携を図りながら、園児が安心して幼稚園生活を送れるよう、幼稚園周辺の定期的な巡回、危険個所の把握及び教職員間の情報共有に努める。</p>
特別支援教育の充実	<p>支援を要する子どもへのアプローチについては、専門家の意見や助言等を取り入れて実践に結びつける必要があるため、キンダーカウンセラーと教職員との意見交換や研修を充実させる。</p>

	<p>積極的に外部研修会に参加し、研修内容を園内研修で報告することで情報共有を図る。</p> <p>保護者と連携して、子ども一人一人に最適な支援ができるよう、個人カリキュラムを作成して対応するとともに、保護者に対して、子どもへの「気づき」を促す取り組みを継続して実施する。</p> <p>子どもの発達や遊びの様子を把握し、キンダーカウンセラーと連携しながら、子どもと保護者へ対応できる体制を整える。</p>
地域・系列校との連携	<p>創立後培ってきた地域とのつながりを大切にし、さらなる相互理解を深めるため、諸行事などを通じて積極的に働きかけ、幼稚園の活動、行事等への理解が得られるように努める。</p> <p>大阪商業大学の施設利用、学園祭での年長組の作品展示及び大阪商業大学高等学校デザイン美術コースとの連携による木製パズル制作を継続して行う。</p> <p>大阪緑涼高等学校保育系進学コースとの連携について検討する。</p>
子ども・子育て支援新制度への対応	<p>「認定こども園」への移行については、研修会への積極的な参加及び東大阪市並びに近隣幼稚園への聞き取り等を行い、情報収集を進める。</p> <p>特に、移行した場合の教育体制を慎重に確認したうえで、コスト、施設設備等の状況も調査し、移行の是非を検討する。</p>

6. 学校関係者よりの意見

<p>➤ さまざまな体験を通して、心情・意欲・態度を育てる教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ クッキングでは、子どもたち自身で材料を考え、買い物も体験できる。 ✓ 生き物の飼育、野菜の栽培などでは、当番を決めて役割も与え、リアルな経験をさせてくれる。 ✓ 家庭ではできない屋外での遊び、たくさんの植物に触れられたこと、大学の附属幼稚園ということで大学への散歩など、常にいろいろな体験ができ、小さい子どもにとっては日々刺激的なことが多い。 ✓ さまざまな自転車があり、家に自転車がないのにも関わらず、自転車に乗れるようになった。 ✓ クッキング、餅つき、生駒登山、けん玉、コマ遊び、絵本の貸し出しなど、子どもたちが喜ぶ保育がたくさんあり、目標を達成することの喜びを教えてくれる。 ✓ 四季折々の行事があり、特に、餅つきなどは家庭で行うことが難しいので、その機会があるのはとてもありがたい。 <p>➤ 絵本の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ さまざまな遊びもあるが、本にも力を入れてくれる。特に、チューリップ文庫や絵本の読み聞かせのおかげで、たくさんの絵本に出会うことができ、物語に入り込む集中力が養われた。 ✓ 終わりの会で、長い話の絵本を毎日少しずつ読んでもらうのは、子どもはすごく楽しみだったようだ。忙しいと省かれる恐れのある時間だと思うが、続けてもらえて良かった。

➤ 異年齢との交流

- ✓ 学年の枠を超えての交流がたくさんあり、年上や年下との関わり方を身につけることができる。
- ✓ 年少、年中、年長のみんなが仲良く、名前も知っていて、園全体が仲が良いのはとても良い。
- ✓ 年長、年中、年少を縦割りにして何かをすると、下の子は「こんなお兄ちゃんやお姉ちゃんになりたいなあ」と思えるし、上の子は「自分が上だから、頑張ってお世話をしなくちゃ」と思うので、良い取り組みだと思う。

➤ 教職員が一丸となった教育

- ✓ 担任以外の先生も顔を覚えてくれて、名前を呼んでくれることや先生方みんなで子どもの成長を見守っていてくれるのがとても嬉しい。
- ✓ 先生方はハキハキして明朗快活で、一人一人の子どもをよく見ていてくれる。親と子どものことははっきりと覚えてくれているので、安心して子どもを預けられる。
- ✓ 担任の先生だけではなく、すべての先生が子どもを把握してくれているので、何かあれば子どもがすぐにSOSを出せる環境であるため、幼い子どもを預ける親にとって安心できる。
- ✓ 先生方がみんな明るく、笑顔で挨拶をしてくれるし、子どもたちが自由でのびのびと園生活を送れて、本当に楽しい幼稚園です。

➤ 子どもを中心に置いた、子どもの主体性を育む教育

- ✓ 子どもを第一に考え、のびのびとした環境と教育方針のもとで子どもの「やりたい」気持ちを尊重してくれる保育なので、決まったことだけを行う保育よりも子どもを成長させてくれる。
- ✓ 運動会のリレーのチーム作りやクリスマス会など皆で行事をするとき、大人がすべて決めるのではなく、子ども同士が話し合っ決めていく。意見を出し合い、少数意見もきちんと聞いた上で、子どもたちが皆が納得するように決定するのは素晴らしい。
- ✓ みんなで一つのことに取り組む時間がたくさんあって、お店屋さんごっこや運動会の曲選び、クリスマス会、劇などの決めごとでは、子どもたちの自主性、協調性を大切にしている。
- ✓ 子ども同士での試行錯誤、協力することやプレゼン力をつける機会も多くあり、子どもたちが主体的に考え、実行して達成感も味わうこともできて、子どもたちはより成長できた。

➤ 充実した園庭

- ✓ 四季を感じることでできる自然豊かな園庭が素晴らしい。
- ✓ 幼稚園オリジナルの素晴らしい複合遊具があり、子どもたちの発育、発達に応じて、チャレンジ達成感を得ることができる。
- ✓ 飼育されている生き物との関わりを通して、生命の大切さ、優しい気持、子どもの自立、責任感など、様々な心の成長を与えてくれる環境がある。
- ✓ 夏の園庭での虫取り、先生も積極的で頼もしく、子どもたちは大喜びでした。
- ✓ コンパクトながら子どもたちが楽しめるように工夫されている園庭が良い。
- ✓ 築山、川、特に実りのなる木々の小さな収穫は、子どもが感動していた。

➤ 歴史のある保育

- ✓ 泥んこ遊びは、最近できない遊びであり、できればさせたくない遊びであるが、幼稚園でさせてもらって、全身泥だらけになって遊んでいるのを見ると商大幼稚園に来て良かったと思う。

- ✓ 季節行事もたくさんあり、そのいわれなども絵本を使って説明がある。行事を行うだけでなく、子どもが行事を理解したうえで行なってくれるので、季節感を大切にしたい日本の伝統を経験できて、子どもたちの豊かな心の成長を感じる。
 - ✓ 昔ながらの遊び（コマ、けん玉、手遊びなど）を子どもに教えていただけたことで、子どもが家庭に持ち帰り、親も昔を思い出し、一緒に楽しめた。
 - ✓ 芋掘りやお茶会、日常ではなかなかできないことをしてくれるところがありがたい。
 - ✓ 運動会、クリスマス会、餅つき大会、お客様ごっこ、乾布摩擦など、昔と変わっておらず、嬉しく懐かしく思った。卒園しても、また子どもを連れて戻って来たい幼稚園として、今後も伝統を残していってほしい。
- 系列校との連携
- ✓ 大学附属のため、体育館やホールを借用したり、学生たちと子どもたちが交流できる点が良い。
- その他
- ✓ 子ども一人一人に合った対応をして下さり、キンダーカウンセリングもあるので、一人で悩みを抱えずにすむ。
 - ✓ 自由な発想で、三角巾、エプロン、コマなどに自分で絵を描くのも素敵で、卒園後も思い出の品として残る。
 - ✓ クリスマス会では一人一人が火の着いたローソクを持ち、歌を歌い、真剣に取り組むことの大切さを教えてくれる。
- 以上の関係者評価を真摯に受け止め、慣れ合いになることなく、より良い保育・教育を目指して各事業を推進する。

7. 財務状況

学校法人谷岡学園として、監事及び公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。